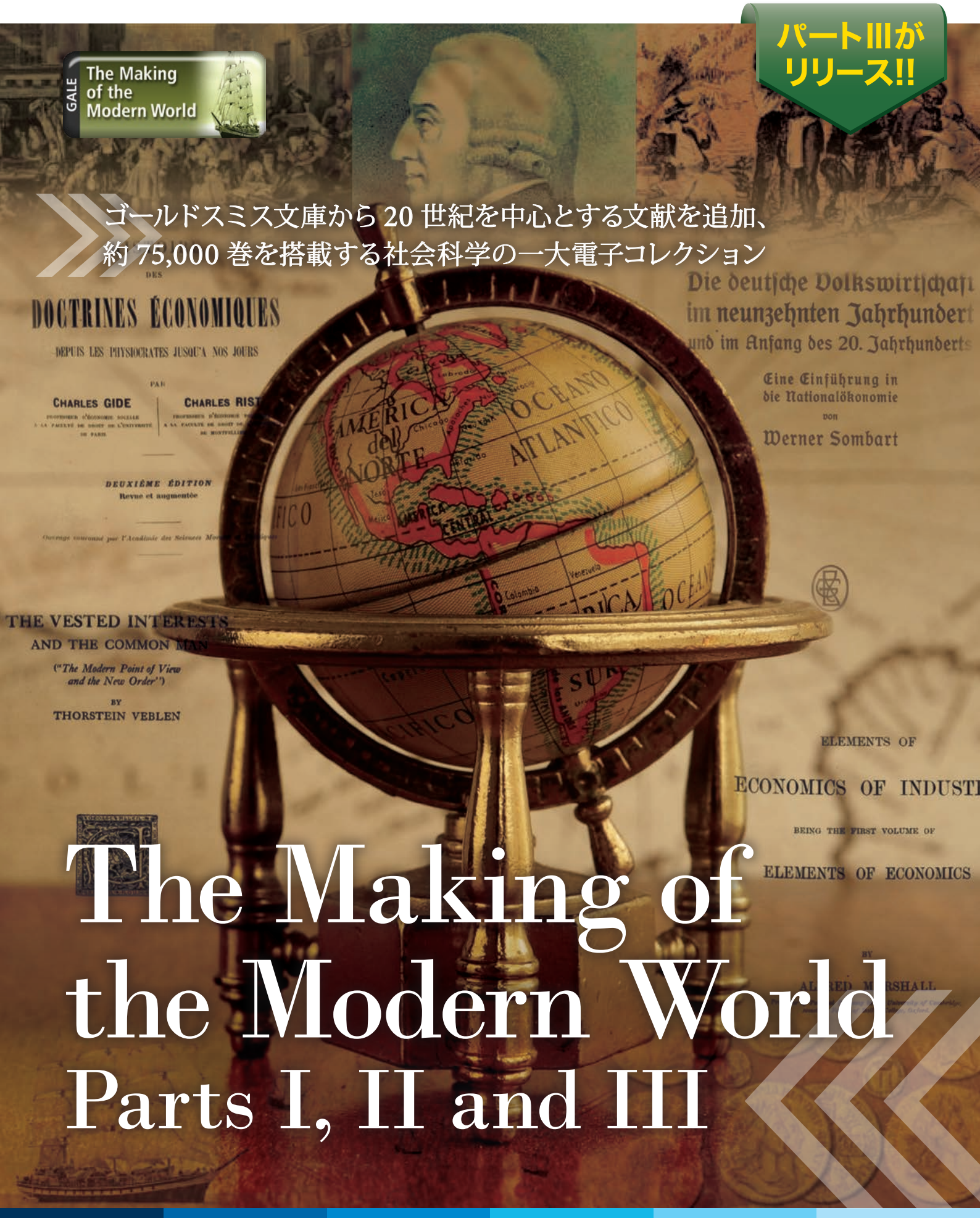
GALE
A Cengage Company



パートIIIがリリース!!

ゴールドスミス文庫から 20 世紀を中心とする文献を追加、
約 75,000 巻を搭載する社会科学の一大電子コレクション

The Making of the Modern World
Parts I, II and III

Gale Primary Sources
Start at the source.

The Making of the Mo
Parts I, II and III

パート III のリリースにより 20 世紀の文献が格段に増加

本データベースは、15 世紀半ばから 20 世紀半ばまでの 500 年間に亘る刊行物約 75,000 巻を搭載する電子リソースです。電子化に際しては原本を忠実に再現し、OCR 処理を施し全文検索を可能にしました。パート I のリリース以来 10 年が経過した現在、本データベースは社会科学研究に不可欠の電子リソースとして世界約 1,200 の学術機関（日本は 70 機関以上）で利用されています。この度、パート III のリリースにより、これまで手薄であった 20 世紀の文献が格段に増加しました。古くはルネサンスの時代の政治思想、社会思想、近代自然法思想から、近世家政学、重商主義、啓蒙思想、重農主義、古典派経済学、古典派以後の経済学まで、経済学がまだその名で呼ばれることのなかった時代から経済学の生誕を経て、大学でアカデミックな経済学教育が行われ、経済学の制度化が本格的に始まる 20 世紀前半までの約 500 年に及ぶ経済学の古典に加え、貿易、農業、製造業、人口、救貧法、植民地、交通、船舶、奴隷貿易、通貨、金融など、近代経済史、経営史の主題に関する文献を搭載、地域的には、イギリス、フランス、イタリア、オーストリア、ドイツ、スウェーデン、アメリカから、オランダ、ベルギー、スペイン、ポルトガル、ノルウェー、デンマークまで、欧米全域に及ぶほか、戦前の日本の経済学者がドイツ語や英語で刊行した著書もカバーします。とりわけ、パート III では限界革命からケインズまでの近代経済学の古典から、年金、家族給付、公的住宅など福祉国家論の古典、さらにはフェビアン協会ら社会主義の古典まで、歴史としての 20 世紀を論ずる上で不可欠の文献が目白押しです。

収録コレクション

《ゴールドスミス文庫（ロンドン大学）》

ケンブリッジ大学等で教鞭を取り、『エコノミック・ジャーナル』の創刊やイギリス経済学会の創設に関わり、学会の会長を歴任した 20 世紀前半のイギリス経済学界の重鎮ハーバート・フォックスウェルが生涯を捧げて収集した書籍やパンレフットのコレクションをベースとして形成されたものです。フォックスウェルが四半世紀をかけて収集したコレクションはゴールドスミス商会が買い取り、ロンドン大学に寄贈したため、ゴールドスミス文庫と呼ばれています。フォックスウェルが売却を決意した当初、イギリス国内では買い手が見つからずアメリカに売却されようとしていたとき、イギリス経済学会が国外流出の危機を『タイムズ』紙上で訴え、『タイムズ』も国内有志による購入を呼びかける社説を掲載、それによってゴールドスミス商会が名乗りを上げ国外流出が阻止されたというエピソードは余りにも有名です。ゴールドスミス文庫は、その後もフォックスウェルの指導の下、ゴールドスミス商会からの助成や図書館予算によりコレクションの拡充に努めます。当初、1850 年以前の刊行物に限定されていたコレクションは、収集対象が 1851 年以後の刊行物にも及び、15 世紀から 20 世紀までの 500 年間をカバーする文字通り世界最高峰の経済学文献コレクションとしての名声を博するに至ります。20 世紀を代表する経済学者で、自身も稀覯書に対する造詣が深かったケインズはフォックスウェル追悼記事の中で、ゴールドスミス文庫をフォックスウェル畢生のライフワークの賜物として、惜しみなく讃えています。

《クレス文庫（ハーバード大学）》

自身のコレクションを売却したフォックスウェルは第二のコレクション収集に情熱を傾けます。30 年間ほど費やして収集されたコレクションは百貨店を経営するクレス商会の会長クロード・ワシントン・クレスの寄付によりハーバード大学ベーカー図書館に寄贈されました。クレス文庫は、経営史、経済史の分野が特に充実しています。

《セリグマン文庫（コロンビア大学、広島経済大学）》

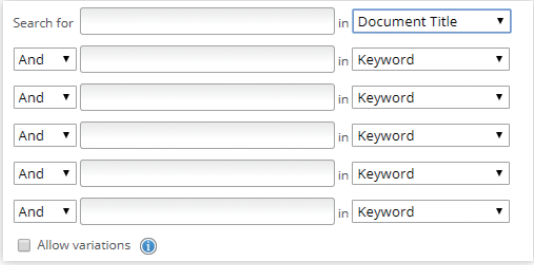
コロンビア大学で長く教鞭を取り、アメリカ経済学会の創設に関わり、学会の会長を歴任し、租税学や経済学史の分野で大きな業績を残した 20 世紀前半のアメリカ経済学界の重鎮エドウィン・セリグマンが収集した書籍やパンフレットのコレクションです。
フォックスウェルとほぼ同時期に約 50 年に亘り文献を収集したセリグマンのコレクションは世界的にも知られ、売却時にはハーバード大学、ソ連政府、日本政府など米国内外から購入の申し出がありましたが、セリグマンは自身が長く教鞭をとったコロンビア大学を売却先に選びました。また、セリグマン旧蔵コレクションの一部は、広島経済大学が所蔵しています。

《経済学史コレクション（カンザス大学）》

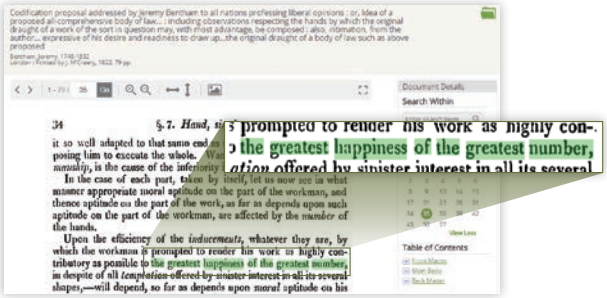
カンザス大学で長く教鞭を取った経済学者リチャード・ホーウィーは経済学研究と教育のかたわら、カンザス大学図書館の経済学史関係資料の収集にも携わりました。ホーウィーが収集したコレクションは、特に 1851 年以降に刊行された文献が充実し、ハーバード大学クレス文庫の司書を長く務めたケネス・カーペンターは、このコレクションを「1851 年以後のコレクションとしては他の追随を許さず、1850 年以前の文献が充実しているクレス文庫と相互に補完しあう関係にある」と評しています。

文献毎に詳細な書誌情報を提供

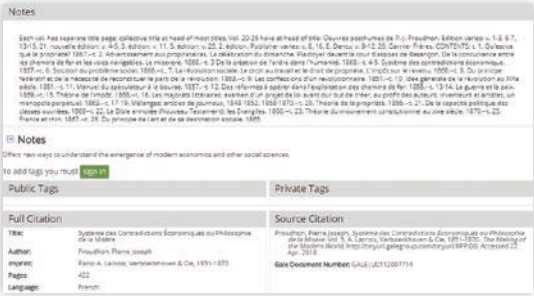
経済学者が収集したコレクションを学術機関がその価値を認めて所蔵するに至ったという経緯が示している通り、かつて市場で流通してきた学術刊行物の中から文献に精通した専門家の二重三重のフィルターを通して選定された文献を搭載しているという点で、本データベースの学術的信頼性は極めて高いものです。加えて、単に文献を集めて電子コレクションにしただけでなく、寄贈先の図書館司書らによって完成された書誌情報を具備している点はいくら強調してもし過ぎることはありません。フォックスウェルが収集を始めた当初、『国富論』異版を完全に揃えることを目指したように、本データベースは経済学史上の古典の異版や外国語訳を多数搭載していますが、収録文献には詳細な書誌や注記が付されているため、古い時代の文献を引用する際に付きまとう煩雑な作業が軽減されることに加えて、全文検索や横断検索によりデジタル時代のテキスト研究に道を開きます。



詳細検索画面（検索範囲の指定・掛け合わせ検索・ファジー検索）



一字一句をフルテキスト検索。検索語はハイライト表示



書名、著者名、出版者名、ページ数、言語、巻数、マイクロフィルムリール番号、物理的形状、原本所蔵機関の書籍情報の他、注記も充実

データベースの概要

《パートⅠ》◆期間：1450 年－1850 年
◆原資料所蔵機関と収録点数：・ロンドン大学図書館（Senate House Library）所蔵ゴールドスミス文庫から約 38,000 巻
・ハーバード大学ベーカー図書館所蔵クレス文庫から約 22,000 巻

《パートⅡ》◆期間：1851 年－1914 年
◆原資料所蔵機関と収録点数：・ゴールドスミス文庫から約 1,200 巻
・コロンビア大学図書館所蔵セリグマン文庫から約 2,100 巻
・広島経済大学図書館所蔵セリグマン文庫から約 700 巻
・カンザス大学図書館所蔵経済学史コレクションから約 1,400 巻

《パートⅢ》◆期間：1890 年－1945 年
◆原資料所蔵機関と収録点数：・ゴールドスミス文庫から約 5,000 巻（パートⅠ, Ⅱ以後に収集された文献を搭載します）

＊パートⅠはマイクロフィルムをスキャニング、パートⅡは一部マイクロフィルムをスキャニング、一部原本をスキャニング、パートⅢはすべて原本をスキャニングしています。

◆言語：英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ラテン語、オランダ語、スウェーデン語、スペイン語、ポルトガル語他
◆機能：ページ送り、画面拡大・縮小、全画面表示、輝度・コントラスト調整のビューワ機能の他、印刷、PDF ファイルのダウンロード、OCR テキストのダウンロード、書誌自動生成、書誌情報のエクスポート、メール送信、ブックマーク、タグ付与等
◆プラットフォーム：パートⅠとパートⅡは現在、国立情報学研究所（NII）電子リソースリポジトリ（NII-REO）にて運用されています。パートⅢは小社 Gale のプラットフォームでの閲覧になります。パートⅠとⅡを Gale のプラットフォームで閲覧し、パートⅢと横断検索するためには、ホスティングフィー（プラットフォーム維持費）をお支払いただく必要があります。

パートIII ＜主な収録タイトル＞ NEW

《イギリス》

〈経済学〉

- パルグレイヴ『1844 年から 1900 年までのイギリス、フランス、ドイツ、オランダ、ベルギーの政策金利と貨幣市場』
- パルグレイヴ『1895 年のイギリスとアイルランドにおける銀行の現状』（1898 年、1901 年、1917 年も収録）
- パルグレイヴ『1894 年のドイツ帝国銀行報告』（1895 年、1898 年、1901 年も収録）
- パルグレイヴ『1894 年のフランス銀行取引』（1895 年、1898 年、1901 年も収録）
- ギッフェン『国民資本の支出』
- ウィクスティード『分配の法則の調整に関する試論』
- フラックス『過去 20 年間の物価下落』
- フラックス『外国為替』
- マーシャル『ケンブリッジ大学の新しい経済学カリキュラム：その目的と計画』
- マーシャル『経済学原理』
- マーシャル『産業と貿易』
- エッジワース『国際価値の理論』
- エッジワース『数式による統計の表現』
- カニンガム『イギリス産業史概観』
- カニンガム『産業革命』
- カニンガム『自由貿易反対論』
- カニンガム『イングランドへの外国人移民』
- カニンガム『自由貿易運動の興亡』
- カニンガム『近代イギリスの産業と通商の成長』
- カニンガム『貨幣の使用と悪用』
- アシュレー『重商主義体系とその歴史的意義』
- アシュレー『賃金の調整』
- アシュレー『自由貿易政策のトーリー的起源』
- アシュレー『関税問題』
- スマート『経済学研究』
- スマート『女性の賃金』
- スマート『富の消費の分配への影響』
- スマート『メンガー、ウィーザー、ベーム＝バヴェルク流価値論序説』
- スマート『所得分配』
- ホブソン『神とマモン：宗教と経済学の関係』
- ホブソン『現代資本主義の進化：機械生産の研究』
- ホブソン『富と生活：価値の研究』
- ホブソン『金、価格、賃金』
- ホブソン『合理化と失業』
- ホブソン『産業システム：勤労所得と不労所得の研究』
- キャナン『富：経済的厚生の原因に関する簡潔な説明』
- キャナン『公正、治安、歳入、軍事に関する講義』
- キャナン『貨幣：物価の上昇と下落との関係』
- キャナン『現代の通貨とその価値の規制』
- キャナン『金銀複本位制批判』
- ピグー（編）『アルフレッド・マーシャルの回想』
- ケインズ『チャーチル氏の経済的帰結』
- ケインズ『アルフレッド・マーシャルの回想』
- ケインズ『自由放任の終焉』
- ケインズ『インドの通貨と金融』
- ケインズ『貨幣改革論』
- ロバートソン『産業の組織』

〈社会哲学〉

- シジウィック『ヨーロッパ政体の発展』
- シジウィック『政治学要論』

〈政治学〉

- ウォーラス『我々の社会的遺産』
- ウォーラス『政治学における人間的本質』
- ウォーラス『我々の社会的遺産』
- ホブハウス『労働運動』

〈社会調査・社会政策〉

- ラウントリー『平和の原理』
- ラウントリー、シャーウェル『イギリスにおけるヨーテボリ流実験と公的住宅基金』
- ブース『ロンドン民衆の生活と労働』
- ブース『王立統計協会会長就任演説』
- ブース『貧困と養老保険』
- ブース『貧困層の一覧と分類と公的老齢年金』
- ブース『すべての高齢者に年金を』
- ブース『老齢年金と高齢者の貧困』
- ターナー『公的老齢年金制度擁護論』
- グレイ『家族給付：批判的分析』
- ギャスケル『出生率の社会的統制と母子手当』
- マルサス主義連盟『失業、その原因と救済：マルサス主義連盟のマニフェスト』

〈国有化論〉

- 鉄道国有化協会『鉄道国有化が意味すること』
- デイビース『鉄道国有化擁護論』
- プラット『鉄道と国有化』
- ブラッチフォード『土地の国有化』
- ホッジス『鉱山の国有化』
- 『石炭供給の国有化：フェビアン研究部で用意された研究』
- カニンガム『我が国の鉄道は国有化すべきか』

〈協同組合論〉

- ウェッブ夫妻『消費者協同組合運動』
- ホリョーク『今日の協同組合運動』
- ホリョーク『ダービー共済組合 50 年史』
- 『バーミンガム協同組合 50 年史 1881-1931』
- 協同組合連合会『イギリスの再生：協同組合党の政策を解説するパンフレット集成』

〈社会主義〉

- モリス『独占、あるいは労働はいかにして収奪されるか』
- モリス『いかにして私は社会主義者になったか』
- ハインドマン『社会主義の経済学』
- ハインドマン『回想録』
- カーペンター『監獄、警察、刑罰』
- カーペンター『自由社会における結婚』
- カーペンター『恋愛論』
- ポドモア『ロバート・オーウェン伝』
- ウェッブ夫妻『資本主義文明の衰退』
- ウェッブ夫妻『イギリスの地方政府』
- ウェッブ夫妻『イギリス社会主義コモンウェルスの基本構造』
- ウェッブ夫妻『イギリス救貧法の歴史』
- ウェッブ夫妻『労働組合主義の歴史』
- シドニー・ウェッブ『社会主義の基礎と政策』
- シドニー・ウェッブ『ロンドン綱領』
- シドニー・ウェッブ『労働組合の状態の回復』
- シドニー・ウェッブ『ダーラム鉱山労働者物語』
- ベアトリス・ウェッブ『社会主義とナショナルミニマム』
- スノーデン『社会主義と絶対禁酒主義』
- スノーデン『国民保険計画の解説』
- マクドナルド『失業と賃金基金』
- マクドナルド『社会的不安：その原因と解決策』
- マクドナルド『社会主義運動』
- 『労働党綱領』
- ビヴァリッジ『一般的失業の防止』
- G.D.H. コール『勝利か既得権益か』
- マックス・ベア『イギリス社会主義の歴史』（ドイツ語）

《ドイツ・オーストリア》

〈経済学〉

- メンガー『オーストリア＝ハンガリー二重帝国における通貨問題』
- ベーム＝バヴェルク『価値の本源的基準』（英訳）

- ベーム＝バヴェルク『カール・マルクスとその体系の終焉』(英訳)
- ベーム＝バヴェルク『オーストリアの経済学者』(英訳)
- ベーム＝バヴェルク『経済的財の価値論の基礎』
- フィリポヴィッチ『政治経済学要綱』
- フィリポヴィッチ『イングランド銀行の歴史』(英訳)
- シュモラー『政治経済学における正義の観念』(英訳)
- シュモラー『重商主義体系とその歴史的意義』(英訳)
- シュモラー『社会問題とプロイセン国家』
- クナップ『貨幣国定説』
- レクシス『通貨問題の現状』
- ロッツ『ドイツにおける貨幣の現状』(英訳)
- シェフレ『社会民主主義の不可能性』(英訳)
- ワグナー『財政学』
- ワグナー『講壇国民経済学と社会主義：王立フリードリッヒ・ヴィルヘルム大学総長就任記念講演』
- ブレンターノ『生産との関係で見た時間と賃金』(英訳)
- ブレンターノ『農業政策教程』
- ゾンバルト『19 世紀と 20 世紀初頭におけるドイツ国民経済学』
- ヴェーバー『一般経済史』(英訳)
- シュルツェ - ゲファーニッツ『社会的平和：イングランド労働運動の研究』(英訳)
- シュヴェンガー『個々の産業部門の経営社会政策』
- 『最新のドイツ通商政策に寄せて』(ドイツ社会政策学会紀要第 90 巻)
- 『精神労働者』(ドイツ社会政策学会紀要第 152 巻)
- 『資本形成と資本支出』(ドイツ社会政策学会紀要第 154 巻)
- 『ドイツ帝国と同盟国の経済的接近』(ドイツ社会政策学会紀要第 155 巻)
- 『ライヒスバンク 1876 年 -1900 年』
- 『ライヒスバンク 1901 年 -1925 年』

〈社会主義・マルクス主義〉

- W. リープクネヒト『社会民主党員は何であり、何を望むか』
- ラッサール『講演・著述集成』
- カウツキー『テロリズムと共産主義』(英訳)
- カウツキー『トマス・モアとそのユートピア』
- カウツキー『マルクス主義の生成』
- カウツキー『カール・マルクスの経済学説』
- ベルンシュタイン『進化論的社会主義：批判と肯定』
- ゾンバルト『19 世紀における社会主義と社会運動』

〈法学〉

- アントン・メンガー『法学の社会的使命：ウィーン大学総長就任記念講演』
- アントン・メンガー『労働全収益史論』

〈社会学〉

- ジンメル『貨幣の哲学』
- ヴェーバー『学問論集』

《フランス》

〈経済学〉

- ド・ラヴレー『貨幣と国際複本位制度』
- ワルラス『アウスピッツ氏とリーベン氏の価格理論の原理に関する観察』
- ワルラス『社会経済学教程』
- ルヴァスール『フランスの農業総生産価値に関する覚書』
- ルヴァスール『1789 年以前の労働者階級と産業の歴史』
- ルロア＝ボーリュー『政治経済学の理論的・実用的概論』
- ルロア＝ボーリュー『財政学概論』
- ジャネー『19 世紀における資本、投機、金融』
- ジッド、リスト『重農主義から現代までの経済学説史』
- ジッド『政治経済学原理』
- ジッド『フーリエ：協同組合の先駆者』
- ジッド『共産主義者と協同組合主義者のコロニー』
- ポワソン『協同組合共和国』(英訳)
- ギヨ『ケネーと重農主義』

〈社会主義〉

- ラファルグ『怠ける権利』(英訳)
- シャルレティ『サン＝シモン主義の歴史』
- ブルジョワ『フランス民主主義の教育』
- ジョーレス『フランスの社会主義組織』
- ソレル『マルクス主義の崩壊』

〈社会学〉

- ル・ボン『社会主義の心理学』(英訳)
- ル・ボン『群衆論』(英訳)

《イタリア》

〈経済学〉

- マルテッロ『反マルサス主義政治経済学と社会主義』
- パレート『収益曲線とエッジワース教授の観察』
- パンタレオーニ『純粋経済学』(英訳)
- コッサ『政治経済学研究序説』
- ロリア『社会の経済的基礎』(英訳)
- ロリア『イタリアにおける経済学』(英訳)

〈ファシズム〉

- ムッソリーニ『団体国家』(英訳)
- ムッソリーニ『ファシズムの政治的・社会的学説』(英訳)

《アメリカ》

- ヘンリー・ジョージ『汝盗むなかれ』
- ヘンリー・ジョージ『土地と人民』
- ヘンリー・ジョージ『労働問題』
- ヘンリー・ジョージ『土地問題』
- ウォーカー『アメリカ国民の形成』
- ウォーカー『政治経済学』
- ウォーカー『国際金銀複本位制』
- パッテン『リカードの解釈』
- パッテン『政治経済学の教育的価値』
- パッテン『動学経済理論』
- パッテン『道徳の進歩の経済的原因』
- パッテン『費用と効用』
- クラーク『パッテンの動学経済学』
- クラーク『富の分配：賃金、利子、利潤の理論』
- セリグマン『経済学原理：アメリカの条件を参照して』
- セリグマン『所得税：所得税制の歴史、理論、実際の研究』
- フィッシャー『経済学原論』
- フィッシャー『貨幣の幻想』
- フィッシャー『利子論』
- フィッシャー『ドルの安定化』
- ヴェブレン『近年における不在所有制と企業組織』
- ヴェブレン『既得権益と普通の人々』
- シーガー『経済学原理』

《スウェーデン》

- ヴィクセル『政治経済学講義』(英訳)
- ヴィクセル『利子と物価』(英訳)
- カッセル『1914 年以降の貨幣と外国為替』
- カッセル『戦後の貨幣の安定化』

《ロシア・ソ連》

- クロポトキン『パンの略取』(英訳)
- クロポトキン『相互扶助論』(英訳)
- クロポトキン『アナーキズム：その哲学と理想』(英訳)
- ブハーリン『有閑階級の経済理論』
- ブハーリン『共産主義の ABC』

《日本》

- 渡井敏治『日本における鉄道の国有化』(英語)
- 添田壽一『日本の金本位制の採用』(英語)
- 草鹿丁卯次郎『歴史的かつ批判的に見た日本の貨幣制度』(ドイツ語)
- 久留間鮫造『日本の消費者協同組合』(ドイツ語)

パートⅠ ＜主な収録タイトル＞

〈ルネサンス〉
- マッテオ・パルミエーリ『市民生活論』
- ギヨーム・ビュデ『古代貨幣考』
- マキャヴェッリ『英訳著作集』
- トマス・モア『ユートピア』
- グレシャム『遺言』
- ダヴァンザーティ『イングランドのシスマ』
- マレストロワ『逆説』（ボーダンの回答付き）
- ボーダン『国家論』
- ボテロ『国家理性論』
- ウィリアム・スタフォード他『現代の我が国の人々が抱く若干の不満の簡潔な考察』
- フランシス・ベーコン『道徳・経済・政治論集』
- カンパネッラ『太陽の都』

〈近代自然法思想〉
- グロティウス『戦争と平和の法』
- ホッブズ『英語著作集』（全 11 巻）（W. モールズワース編）
- カンバーランド『自然法』（J. バルベラックによる仏訳）
- プーフェンドルフ『自然法と万民法』（J. バルベラックによる仏訳）
- ロック『統治二論』
- クリスティアン・ヴォルフ『科学的方法による自然法』
- ビュルラマキ『自然法と公法の原理』

〈イギリス－重商主義〉
- トーマス・マン『外国貿易によるイングランドの財宝』
- マリーンズ『商品、貨幣、為替に応じた自由貿易の維持』
- ミッセルデン『自由貿易、あるいは貿易を繁栄させる方策』
- ペティ『アイルランド論集』
- ウィリアム・テンプル『著作集』（全 4 巻）
- ジョサイア・チャイルド『新貿易論』
- ニコラス・バーボン『貿易論』
- ダドリー・ノース『貿易論』
- チャールズ・ダヴナント『政治・商業関係著作集』（全 5 巻）
- デフォー『完全なるイギリス商人』
- ヴァンダーリント『貨幣万能』
- ジョゼフ・ハリス『貨幣と鋳貨に関する試論』
- ジョサイア・タッカー『政治商業問題四論』
- ジェイムズ・スチュアート『経済学原理』

〈イギリス－啓蒙主義とその周辺〉
- マンデヴィル『蜂の寓話：私悪すなわち公益』
- リチャード・スティール『財産の危機』
- ハチスン『道徳哲学体系』
- ケイムズ卿『ジェントルマン・ファーマー』
- ヒューム『公債論』
- ロバートソン『アメリカ史』
- ファーガスン『市民社会史論』
- プライス『市民的自由の本性、政府の原理、アメリカとの戦争の正義と政策』
- バーク『著作集』（全 16 巻）（1826-1827）
- プリーストリー『政府の第一原理と政治的・市民的自由の本性』
- ミラー『階級の区分の起源』
- ペイン『政治著述集』（全 2 巻）
- ベンサム『著作集』（全 11 巻）（ジョン・バウリング編纂）
- デュガルド・スチュワート『アダム・スミス、ウィリアム・ロバートソン、トマス・リードの伝記的回想』
- ゴドウィン『政治的正義』
- ウルストンクラフト『女性の権利の擁護』

〈イギリス－古典派経済学とその周辺〉
- スミス『著作集』（全 5 巻）（デュガルド・スチュアート解説）（1811-1812）
- ローダーデイル伯『公共の富の性質と起源』
- ヘンリー・ソーントン『紙幣信用の本質と効果』
- マルサス『人口論』（第 1,3,4,5,6 版）
- リカード『著作集』（マカロック解説）（1846）
- ジェイムズ・ミル『経済学要綱』
- マカロック『政治経済学原理』
- シーニア『政治経済学概説』
- サミュエル・ベイリー『貨幣とその価値の変化』
- ラムゼイ『人間の幸福と義務の原理』
- トゥック『物価史』（第 1,2 巻）
- フラートン『通貨規制論』
- ジェイムズ・ウィルソン『資本、通貨、銀行』
- ギルバート『銀行の歴史と原理』
- トレンズ『富の生産に関する試論』
- ロイド『通貨と銀行に関する実務的所見』
- ノーマン『通貨と銀行に関する誤った通念に関する所見』
- ウェイクフィールド『イギリスによるニュージーランド植民』
- コブデン『穀物法、自由貿易、植民』
- ジョン・スチュアート・ミル『政治経済学原理』（第 1,2 版）

〈イギリス－社会主義〉
- オーウェン『新しい道徳世界の書』
- チャールズ・ホール『人民の現在の困窮の原因』
- トムソン『人間の幸福に最も寄与する富の分配原理』
- ホジスキン『資本の要求に対する労働の擁護』
- グレイ『貨幣の本性と使用に関する講義』
- ジョン・フランシス・ブレイ『労働の不正と救済』
- コベット『政治著作選集』（全 12 巻）

〈イタリア－啓蒙主義とその周辺〉
- ヴィーコ『新しい学の原理』
- ジェノヴェージ『商業、あるいは市民経済学講義』
- パルミエーリ『国富について』
- ガリアーニ『貨幣論』
- グリマルディ『南カラブリア農業経済論』
- ベッカリーア『犯罪と刑罰』（英訳）
- ガランティ『アントニオ・ジェノヴェージ歴史的賛辞』
- フィランジェーリ『立法の科学』

〈フランス－重商主義とその周辺〉
- リシュリュー『政治的遺言』
- ニコラ・フーケ『著作集』（全 16 巻）
- コルベール『回想録』
- ボアギュベール『フランス詳論』
- ジョン・ロー『著作集』

〈フランス－啓蒙主義とその周辺〉
- ベール『歴史批評辞典』
- モンテスキュー『著作集』（全 3 巻）（1758）
- ヴォルテール『百科全書の諸問題』（全 9 巻）（1771-1772）
- ディドロ『自然の解釈に関する思索』
- ディドロ・ダランベール（編）『百科全書』
- ガブリエル・ボノー（マブリ神父）『全集』（全 15 巻）（1794）
- ルソー『社会契約論』
- エルヴェシウス『全集』（全 4 巻）（1777）
- モレリ『自然の法典』
- ドルバック『自然の体系』
- レナール『両インド史』
- スミス『国富論』フランス語訳（全 4 巻）（コンドルセ注解）

〈フランス－重農主義とその周辺〉
- ケネー『フィジオクラシー』（デュポン・ド・ヌムール編纂）
- ミラボー侯爵『人間の友：人口論』
- メルシエ・ド・ラ・リヴィエール『政治社会の自然的本質的秩序』
- ル・トローヌ『社会秩序について』
- ボードー『経済哲学序説』

- テュルゴ『全集』（全 9 巻）（1808-1811）
- デュポン・ド・ヌムール『テュルゴの生涯と業績に関する回想』
- カンティヨン『商業一般の性質に関する試論』
- コンディヤック『商業と政府』
- ジャン＝ジョゼフ＝ルイ・グラスラン『富と租税に関する分析試論』
- ネッケル『全集』（全 15 巻）（1820-1821）（スタール夫人編纂）

〈フランス－古典派経済学とその周辺〉

- セイ『政治経済学概論』
- シスモンディ『政治経済学新原理』
- ロッシ『政治経済学講義』
- デュノワイエ『社会経済学新論』
- シュルビュリエ『社会的富の現在の分配の原因と結果に関する簡潔な説明』
- A.=J.・ブランキ『ヨーロッパにおける政治経済学の歴史』
- バスティア『経済的調和』
- クールノー『富の理論の数学的原理』
- シュヴァリエ『コレージュ・ド・フランス政治経済学講義』
- ウロウスキー『政治経済学並びに統計学教程』

〈フランス－観念学派〉

- カバニス『ミラボー伯の病気と死の日誌』
- デステュット・ド・トラシ『政治経済学概論』
- レドレル『政治的権利との関係において考察した所有権』
- シエース『第三身分とは何か』

〈フランス－社会主義〉

- サン＝シモン『著作集』（オランド・ロドリーグ編纂）
- バザール『サン＝シモンの教義』
- アンファンタン『サン＝シモン主義の宗教』
- フールネル『サン＝シモン関係書誌：1802 年から 1830 年』
- フーリエ『全集』（全 6 巻）（1841-1848）
- ルシュヴァリエ『フーリエの社会組織の解説』
- トランソン『フーリエの協同社会論』
- コンシデラン『社会の運命』
- ペレール兄弟『産業と金融に関する教訓』
- ペクール『社会経済学と政治経済学の新理論』
- カベ『イカリア旅行記』
- プルードン『経済的矛盾の体系、あるいは貧困の哲学』
- ルイ・ブラン『労働の組織』
- シュタイン『今日のフランスの社会主義と共産主義』（ドイツ語）

〈ドイツ－家政学〉

- コーラー『農業と家政』
- ホーベルク『篤農訓』
- ビュントシュ『家政覚書』
- ベックラー『実用的家政・農学派』
- グローレツ『家政・農業全書』
- フローリヌス『賢明で思慮深い家長』
- ベッヒャー『賢明な家長、思慮深い主婦、完全なる農政家』

〈ドイツ－重商主義〉

- オッセ『遺言』
- オプレヒト『善良なる統治の五つの政治的種別』
- ベッヒャー『都市、領邦、共和国の盛衰の本来的原因に関する政治的論考』
- ダルイェス『官房学の第一の基礎』
- ユスティ『政治学財政学全集』（全 3 巻）（1761-1764）
- ゾンネンフェルス『全集』（全 10 巻）（1783-1787）

〈ドイツ－啓蒙主義〉

- フランケ『ハレの敬虔』
- メーザー『郷土愛の夢』
- ニコライ『1781 年のドイツ・スイス紀行』
- シュレーツァー『新生ロシア、エカテリーナ 2 世の生涯』

〈ドイツ－国民経済学〉

- フォス（編）『シュレーツァーの学説による一般国家学便覧』
- クラウス『国家経済』（ハンス・フォン・アウアースヴァルト編）
- ゾーデン『国民経済学』
- フーフェラント『国家経済術の新しい基礎付け』
- フィヒテ『封鎖商業国家』
- ザルトリウス『アダム・スミスの原理に準拠した大学講義用国家経済学便覧』
- シュトルヒ『政治経済学講義』（ジャン＝バティスト・セイ注解）
- ロッツ『国家経済学便覧』
- フォン・チューネン『農業及び国民経済学との関係における孤立国』
- ラウ『国民経済学原理』
- ロートベルトゥス『国家経済の現状認識のために』
- リスト『政治経済学の国民的体系』
- ロッシャー『歴史的方法による国家経済学講義要綱』

〈ドイツ－社会主義〉

- ルーゲ『全集』（全 10 巻）（1847-1848）
- シュティルナー『唯一者とその所有』
- ヴァイトリング『調和と自由の保証』
- グリューン『フランスとベルギーの社会運動』
- マルクス『哲学の貧困』
- エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の状態』

〈アメリカ〉

- フランクリン『著作集』（全 10 巻）（1836-1840）
- ジェファーソン『ヴァージニア覚書』
- マディソン『イギリスの公式見解の検証』
- ハミルトン『論集』（フランシス・リスター・ホークス編纂）
- ケアリー『経済学原理』
- ジョン・レー『政治経済学の主題に関する若干の新原理』

〈人口統計、社会調査〉

- ジョン・グラント『死亡表に関する自然的並びに政治的観察』
- ロバート・ウォレス『古代の人口と現代の人口』
- ジュースミルヒ『神の秩序』
- ケトレー『人間とその能力の発達について』
- ジョナス・ハンウェイ『労働する我が同胞臣民の青少年の重要性に関する書簡：幼児の教区貧民の悲惨な状態に関する解説』
- トマス・ギルバート『貧民の救済と雇用改善のための計画』
- イーデン『貧民の状態：イングランドにおける労働者階級の歴史』
- パラン＝デュシャトレ『パリの売春』
- ヴィレルメ『綿、羊毛、絹織物工業労働者の身体的、道徳的状態の概観』

〈簿記〉

- パッチョーリ『スンマ』
- インピン『著名にして優れた書』
- シュヴァイカー『複式簿記』
- シーベ『商業一般辞典』
- サヴァリ『完全なる商人』
- マッシュー・ド・ラ・ポルト『商人と簿記方の科学』
- オールドカースル、メリス『簿記法の簡潔な手引』
- ジェームズ・ピール『貸借勘定習得への小径』
- ダフォーン『商人の鏡』
- マルコム『算術と簿記の新論』
- メイヤー『近代的簿記』
- ベンジャミン・ブース『完全簿記体系』
- ハットン『実用算術と単式並びに複式簿記』
- エドワード・トマス・ジョーンズ『ジョーンズのイギリス式簿記法』
- ハミルトン『商品入門』
- ケリー『簿記要論』
- ミッチェル『新完全簿記法』

パートII ＜主な収録タイトル＞

〈イギリス－経済学〉
- マカロック『利子、交換、鋳貨、紙幣、銀行』
- シーニア『アイルランド論集』
- ギルバート『銀行の論理』
- ロイド『硬貨と紙幣』
- J.S. ミル『政治経済学原理』（第 3 版）
- J.S. ミル『書簡集』
- J.S. ミル『論文集と討論集』（全 4 巻）
- J.S. ミル『代議制統治論』
- J.S. ミル『女性の解放』
- トレンズ『金融と貿易』
- ニューマーチ『金の新しい供給』
- バジョット『ロンバート街』
- パルグレイヴ『1844 年から 1872 年までのイングランド銀行の取引の分析』
- ジェボンズ『政治経済学の理論』（第 1,2,3,4 版）
- ジェボンズ『純粋論理学論集』
- ジェボンズ『石炭問題』
- ギッフェン『経済の探求と研究』
- ギッフェン『金融論集』
- シジウィック『政治経済学原理』
- マーシャル『産業経済学』
- ウィックスティード『政治経済学の常識』
- エッジワース『税制の純粋理論』
- トインビー『イングランドにおける 18 世紀産業革命』
- ホブソン『国際貿易』
- フラックス『スウェーデンの銀行システム』
- クラパム『羊毛工業と毛織物工業』
- ピグー『富と厚生』

〈イギリス－社会思想〉
- オーウェン『自伝』
- スペンサー『社会静学』
- スペンサー『社会学研究』
- ラスキン『この最後の者にも』
- モリス『ユートピアだより』
- ショー、ウェッブ、ベザント他『フェビアン協会社会主義論集』

〈フランス〉
- デュノワイエ『社会経済学注解』
- バスティア『政治経済学論集』
- ウォルコフ『合理的政治経済学講義』
- クルセル＝スニュイエ『政治経済学原論』
- シュヴァリエ『金の価値の蓋然的下落』
- ウロウスキー『銀行の問題』
- ガルニエ『人口の原理』
- ブロック『アダム・スミス以降の経済学の進化』
- ジュグラー『仏英米における商業恐慌とその周期的反復』
- ルヴァスール『フランスの人口』
- ルヴァスール『第三共和政フランスの労働者と企業家の問題』
- ルロワ＝ボーリュー『労働者の道徳的知的状態と賃金率への影響』
- ルロワ＝ボーリュー『現代の戦争の歴史的・統計的経済研究』
- ワルラス『交換の数学的理論の原理』
- ワルラス『純粋経済学要論』
- ワルラス『応用経済学教程』
- ワルラス『社会的富の数学的理論』（第 1,2,3 版）
- ワルラス『正義の政治経済学：プルードン経済学の批判的検討』
- リエス『フランスにおける信用と銀行の進化』
- コーベ『政治経済学講義』
- ル・プレー『ヨーロッパの労働者』
- ド・ラヴルー『所有とその原理的形態』
- プルードン『全集』（全 26 巻、第 24 巻欠）

〈イタリア〉
- コッサ『政治経済学論集』
- パンタレオーニ『租税転嫁論』
- グラツィアーニ『利子論研究』
- リカ＝サレルノ『イタリア財政学説史』

〈オーストリア〉
- メンガー『国民経済学原理』
- ヴィーザー『自然価値論』
- ヴィーザー『経済的価値の起源と基本法則』
- ベーム＝バヴェルク『資本の実証理論』（英訳）
- ベーム＝バヴェルク『資本と利子』（英訳）
- フィリポヴィッチ『ドイツの対外移民と対外移民政策』

〈ドイツ－経済学〉
- ロードベルトゥス『社会問題の解明』
- ロードベルトゥス『書簡と社会政治論集』
- シェフレ『国民経済学、あるいは一般経済理論』
- シェフレ『資本主義と社会主義』
- エンゲル『ベルギーの労働者家族の生活費』
- ロッシャー『暦史的観点から見た国民経済学』
- クニース『歴史的観点から見た政治経済学』
- クニース『貨幣と信用』
- シュモラー『19 世紀におけるドイツ中小産業史』
- シュモラー『特に 17,18 世紀のプロイセン国家に焦点を当てた国制・行政・経済史の概説と研究』
- ワグナー『ピール銀行条例の貨幣と信用理論』
- クナップ『人口統計記録による死亡率調査』
- イナマ＝シュテルネック『アダム・スミスとその『国富論』の現代国民経済にとっての意味』
- ブレンターノ『現代の労働組合』
- ブレンターノ『現代の経済秩序に応じた労働者保険』
- ビュッヒャー『労働とリズム』
- ベルクマン『国民経済学の恐慌理論の歴史』

〈ドイツ－社会主義〉
- マルクス『資本論』
- エンゲルス『家族、私有財産、および国家の起源』
- ラッサール『労働者綱領』
- ラッサール『間接税と労働者階級』
- デューリング『国民経済学と社会主義の批判的歴史』
- ベーベル『日曜日の労働』
- ベーベル『シャルル・フーリエ：その生涯と理論』
- カウツキー『エルフルト綱領』
- アドラー『マルクスの現存する国民経済学批判の基礎』
- フランツ・オッペンハイマー『社会問題と社会主義』

〈スウェーデン〉
- ヴィクセル『利子と物価』（ドイツ語）
- ヴィクセル『最新の経済理論による価値、資本、地代』
- カッセル『利子の本質と必要性』

〈アメリカ〉
- クラーク『経済学要論と現代の産業と公共政策への応用』
- ラフリン『アメリカにおける金銀複本位制の歴史』
- イーリー『独占とトラスト』
- イーリー『アメリカの労働運動』
- パッテン『保護の経済的基礎』
- タウシッグ『米国関税史』
- タウシッグ『経済学原理』
- セリグマン『税制論集』
- セリグマン『税の転嫁と帰着』
- コモンズ『富の分配』
- フィッシャー『利子率：その本質、決定因、経済現象との関係』
- フィッシャー『価値と価格理論における数学的探求』

GALE
A Cengage Company

すべてのコンテンツと機能をお試しいただける 1 ヶ月の無料トライアルをご提供しております。
商品に関するお問い合わせは、センゲージラーニング株式会社までお願いします。
Tel：03-3511-4390　E-mail：GaleJapan@cengage.com

MOMW(1)-1805-05-AZD